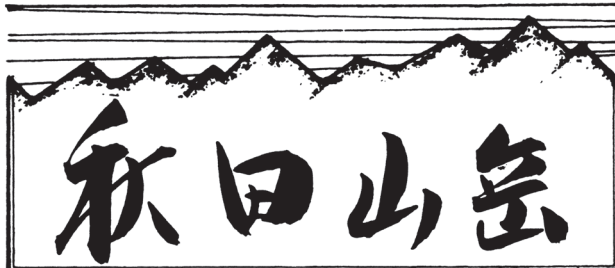


2016



平成 28 年 12 月 発行

No. 103

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

大山健助氏 追悼

大山健助氏追悼 心に残るあの笑顔

鈴木 要三

大山さんの笑顔は、まさに七福神たちの顔そのものです。特に一杯入った時の朗らかな笑顔は、そばにいる私たちが幸せになる至福の笑顔でした。

支部の山行で身近に行動を共にしたことはありませんが、一度だけ、それまたまた私自身最後の山歩きになつてしまった太平山前岳（女人堂跡）行です。

平成二十四年十月二十四日、支部の里山山行会でした。体調がイマイチだった大山さんは難行苦行。小笠原さんが大山さんのザックを背負うなど、なんとか女人堂にたどり着いた時の大山さんの笑顔がひとときわ心に残ります。

日本山岳会創立百周年記念式典（平成十七年十月）をきっかけに、大山さん、小笠原さん、金さん（現在退会）と私の四人は、「年に一度ぐらいは富士山を見たい」と意気投合し、「富士山を見ろ！富士見↓ふじみ」の会を立ち上げました。十月の記念式典に大山さんは事情があつて参加できませんでしたが、以後、亡くなる前々年あたりまで四人揃つてあちこちに出かけました。登山といえないまでも、「明田富士山」、「真



人山」も楽しみました。

富士山は一度（揃つて）も見る事が出来なかったのが心のこりです。私たちの散策会の締めは、必ず小宴があり、ほろ酔いの状態で次の行く先を決めるのが慣わしです。能代松山城跡へ行った時は、本丸跡からの展望

を楽しみながらの宴会となり、酩酊状態の大山さんの両脇を抱えて帰途についた思い出が一番です。一昨年あたりから体調を崩され、ふじみ会への参加も途切れてがちでした。いつでも他の三人も順調ではありませんでした。が……。

入院、退院の繰り返し状態をお聞きしたのは一昨年の暮れから昨年の年明け後の春でした。一月の例会では三吉神社で快癒のお祈りをしたのですが、その後は再会を果たすことが出来ませんでした。残念に思っています。奥様からは葬儀、七日仏事の終わった後にお話をいただきました。突然の訃報に驚きました。

平成二十七年八月三十日、八十三歳の生涯を閉じられました。楽しい先輩でした。優しい先輩でした。約十年の「ふじみ会」（現在は残った三人で継続中）

の散策会は大山さんの笑顔と共にありました。安らかに眠りください。今までのご交誼に深く感謝申し上げます。心からご冥福をお祈りいたします。（合掌）

大山さんを偲ぶ

佐々木 民秀

いつも笑顔を絶やさず、人一倍温厚な大山さんが逝つて早や二年になろうとしている。

大山さんは、当時、支部長であつた岡田光行さんの紹介で平成三年四月に入会。岡田さんと同じ職場であつたことからその事務的手腕をかわれ、入会の翌々年から支部長の片腕として会計事務を引き受けて頂いた。以後、長きに渡り会計事務に尽力し、その功績は大きく、当時、事務局を担当していた私にとつても多大なるお力添えをして頂いた。

その後、監事役としても、体調を崩されるまでの長い間引き受けてくださり、支部への協力を最後まで惜しまず協力して頂いた。心から感謝を申し上げます。おききたい。

大山さんとは、数多くの山行をご一緒した。中でも、平成四年に実施された「姉妹山締結一周年記念」親善登山の韓国・智異山と北漢山への山行、全国支部懇談会・岐阜大会の時に登った加賀の白山、年次晩餐会記念山行、そして、北海道・礼文岳と利尻岳等が懐

かしい。また、春秋の支部山行など思い出は尽きることはない。
常にニコニコと、お酒がすすむことの愉快な話で、我々を楽しませてくれた。今頃は、先に逝った名物支部長・岡田光行さん、超人山男・深井是之さんと日本通運御三家として、彼の地で尽きることない四方山話を楽しんでいるのかもしれない。
心からご冥福をお祈りいたします。
(合掌)

平成三年四月入会

会員番号一〇八七五

平成五年四月〜平成十年三月

支部会計担当

平成二十年四月〜平成二十六年三月

支部会計監事



鈴木(裕) 佐藤博 大山健助さん 佐々木(民) 岡田光行さん

平成七年

本会創立九十周年記念山行
神奈川県・塔ノ岳で

第四回登山教室指導者養成講習会に参加して

本会支部事業委員会主催の「第四回登山教室指導者養成講習会」が宮城支部主管で、平成二十八年十月十五日、十六日宮城県太白区秋保町で開催。

秋田支部から鎌田倫夫、石川祐子、安藤金栄の三名が出席。講習内容等は別添で報告。

鎌田 倫夫

今回の講習会に参加して、参加者の平均年齢の高さに驚いたものの全員に真剣さを感じた。それだけ中高年の遭難事故が多く、関心も高いのかもしれない。

また、スリング数本とカラビナを二〜三個は常にザックに着けていることにより活用出来たと思った。

石川 祐子

四十歳になるまで登山をしたこともなかった私が、何で日本山岳会に入っただろう、と時々考える。十代から登山に親しみ、鍛錬を重ね、技術や知識を身に着けた先輩会員の方々にとって、私の入会は「これは大変なことになったぞ」と思うような受け入れスタートだったのではないかなと思う。

そんな自分にとって幸いしたのは、自分にもわからないレベルを同行の先輩たちが分かってくれたことだ。おかげで、「山が好き」という気持ちと体力、少々の豆知識と山道具を持つて

先輩たちに甘えながら二十年という年月を重ねていくことができた。

六十代後半に突入する今、自分の行ける山に無理せず楽しく登れたらそれでいいという気持ちが芽生えていたのに、今回の「指導者養成講習会」というネーミングは重たく感じられたのだが、参加したことで得たものは大きかった。

最近のJAC入会者は、入会時の私のような方も多いとか。それなら少しは気持ちもわかるかな。

「安全」というお題目だけが独り歩きしないように、出来るだけ必要な装備を自分で準備し、同行者と協力しあったりして使う機会も増やしたいと思う。不慮の事態に遭遇するも、それが山だ、という気持ちでこれからも親しみ、楽しませてもらうと思います。参加者の皆さんとってもキラキラしてました。

安藤 金栄

講習会二日目(十五日)

講師、松原尚之ガイドによる登山の安全管理と対策実技講習。

石切山へ登りの途中、下方から道を間違えているとの声、これも道迷いの訓練なのか。・・・?

早速、ビバーク時のツェルトの設置方法から入る。自分も登山時にはザックに入れているが使ったことはない。簡単と思えるツェルトでも張ってみる

と難しい。これ一つで冬の富士山を何日か過ごしたそうである。

次にロープワーク。斜面にフィックスロープを張り、木に結んだスリングにカラビナがかけられたロープを、皆スイスイ降りるが、躊躇していた私が最後になった。ここから落ちて死ぬことはないと思うが、皆の視線が気になり緊張する。

背負いの搬送の方法でザックを担架には驚いた。山道具は扱い方、使用方法で色々な応用が出来ることを知る。

実技講習を終え、弁当を囲んでの和やかな昼食会。最後に一人ひとりの意見交換で各支部の交友を深め、山行の安全と各支部の活動を祈念し、無事解散となった。



太平山御手洗のベンチを補修

十月十五日、秋田大学職員山の会主催で御手洗のベンチ補修が行われました。そのお手伝いの要請があり、秋田支部からは三浦眞六委員が参加しました。

薄藪を漕いで「源五郎岳」へ 石川 祐子

平成二十八年十月二十三日(日)、数日前から天気予報を気にしつつ秋の里山山行の日を待った。願い通じて、当日は青空が見え隠れする山行日和となり、集合場所の五城目道の駅から出発する。

今回向かう森吉周辺では、森吉山ダム建設に伴い、十四集落が水没・移転した。その合同神社が森吉山大橋のたもとにあるので、まずはみんなで参拝をする。四季美湖を見ながらかつて集落で暮らしていた方々のことを思った。

橋の手前からすぐ左の一般道へ。そして途中から、明利又方面に向かう一一一号に続く道へと入る。車は瀧を左方に確認してから大きくカーブする道の先に置いた。軽トラが一台あった。イザ!! 藪に入り込み、沢を渡る所で、私の記憶の曖昧さを再認識しながら尾根を見上げてしまった。前に柳田、福田両先輩と来た時は、尾根の末端へと急登を登り詰め、下山は途中から多少緩やかに下りやすいコースをとって、沢に沿った林間を歩いて戻ってきたという記憶があったのだ。

藪を漕ぎながら登りはじめ、少しずつ主尾根に近づいていく。秋田長くつのおかげで足元に不安はない。二人の会員はヘルメットを装備している。進んでいくと白く変色したらしいリボンテープが結ばれている箇所があった。踏みあともしっかり確認できた。「こ

れは山頂に向かっているな」という声もあがった。草の濃い部分もあり、新しいテープを付け足しながら進む。登りはいいが、下りの時にはここは間違いないと感じる場所もあった。岩の中にしめ縄を結んだ祠を見つけると、その先はすぐに2等三角点の山頂だった。南北に延びている細い山頂部の南側に三角点はある。

少し狭いが、みんなでくつつきあって食べる昼食は和気あいあい。季節の栗やいちじく、きのこ……こんなに重いのによく頑張つて、いつも感謝だ。鎌田山行委員から十五日〜十六日に参加した「登山指導者養成講習会」の口頭での報告があった。

記念撮影後、下山時は踏みあとを忠実に進んでいくと、駐車地へとつながっていた。軽トラが停まっていたちようどそこだったのだ。「まだ昼過ぎだ。もう一つ行きたい山はないか?」と冗談ともつかない言葉が上がる(この言葉、以前の山行でよく聞いたな)(笑)。合同神社に移動。日が落ちるのも早いことから、二時にはそれぞれの帰路についた。

最近では林道の崩壊や藪化、登山コースの廃道化も進み、先輩たちが歩いてきた道や切り開いてきた道が少しずつ消えていくのではと心配だ。それに伴って貴重な経験までも伝えられないのでは……と勿体ない気持ちになる。春の勝軍山の報告に、薄ヤブ漕ぎの

楽しさ味わえたという記録があった。山行責任の鎌田さんは秋の山行を源五郎岳に決定するにあたり、参加者の関心と、藪の状況に加えたこのところの熊対策にとっても悩んだと思う。

しかし、今回会員外の皆さんも共にリーダーを先頭にして道を確認しながらの藪山登下山は、一皮剥けた山行になったのではないかと、私自身は感じ、非常に満足だった。

参加者

福田光子 今野昌雄 柳田勇悦
若月 寿 鎌田倫夫 佐藤 博
石川祐子 佐々木長秀 佐々木悦子
安藤金栄 澤田石一夫
会員外 吉川昭子 高橋勝美
柳田レイ子 鈴木茂夫



支部合同会議報告

鈴木 裕子

九月十日(土)〜十一日(日) 午後一時から東京四谷プラザF四階会議室で開催。今野支部長、鈴木(裕)事務局長出席。今年は東日本地区、西日本地区に分かれて開催。

小林会長から、公益社団法人としての存続し続けるため、我々がどのような活動をしなければならないか、についての意見交換を期待するとの挨拶があった。

会務報告では、日本山岳会の組織、執行体制、会員数の現況について等の説明があり、財務状況では、会員の増をしなければ日本山岳会の現状を維持することは難しい。また、支部への助成金を、現在二二〇〇円から二二〇〇円へ減とする説明があった。

会員制度の変更では、準会員と賛助会員の規程の説明。また、新たに会員証を発行する等。

「山の日」は、全支部何らかの形で対応している等、様々な意見交換が行われたが、特に、会員、準会員増についての協力を求められた。

各支部でも行事への出席者減と高齢化が大きな問題のようである。支部会員の動向を示す分析表が示され、秋田支部は高齢化のリスク、会員減のリスクに*マークが二個もついていた。

私見として、無い袖は振られないから財源に見合った事業で良いと思う。

(会報「山」十月号No.八五七参照)

公益的事業

太平山歩道整備等

安藤 金栄

十一月五日(土)、連日のすっきりしない天候が続く中、当日朝、やはり雨、意を決して二手ノ又登山口へと向かう。到着後も中止かと思わせる雨が降る。八時頃には雨足が強くなってきたが、参加者の車が次々と集結してくる。皆で、スキー場リフト下で雨宿りする。中止か決行か判断がつかず、しばらく様子を見る。

八時三十分、よし、やろうの掛け声で、各自雨具を身に着け、それぞれの道具を背に出発する。

紅葉の赤や黄の落ち葉に覆われた滑る登山道に足を取られながらも、いよいよ刈り払い作業に入る。天気が良ければ遠く鳥海山を見渡せる展望台でザックを降ろし、風景を遮る雑木をナタやノコギリで切り倒す。



十時三十分、金山滝コースの分岐に集合。先に出発した班が、白地に赤文字で彫刻した「金山滝方面」「オーパススキー場方

面」の二枚の標識を取り付けていた。ここは積雪期に迷いやすい箇所であり、標識の重要性を再認識する。



軽食と茶で休憩後、記念集合写真に納まり下山開始。下山途中で知り合いの二人の女性登山者が出会った。

久しぶりの挨拶から開口一番、登山道が綺麗に刈り払われ、大変歩きやすいとの事。誰がやっているのかと思つたとの問いに、思わず心がニンマリ、ホッとする。太平山前岳、中岳コースは最も気軽に登れる初心者向けのコースと紹介されている。山歩きは有酸素運動のため、糖質や脂肪燃え、健康にも良いという。プチ歩道整備であるが、もっと多くの人に楽しんでもらえるよう続けていきたいと思う。

作業終了後、太平山リゾート公園口グ施設で昼食。お決まりの健康と高齢化社会の話題で盛り上がり、風雨の中、寒い寒い昼食会もお開きとなり、無事に解散となった。

参加者 佐々木民秀 今野昌雄
柳田勇悦 堀井弘 鎌田倫夫
佐藤博 石川祐子 安藤金栄
熊谷光子 藤田正義
会員外 畠山秀雄

年次晩餐会 開催

十二月三日午後六時から、東京都新宿区、京王プラザホテル・コンコードルームで開催。皇太子殿下もご出席。参加者約四一〇名。

小林会長の挨拶に続き、物故会員への黙祷、新永年会員顕彰、秩父宮記念山賞は「日本の山岳信仰と修験道に関する宗教学的研究」の鈴木正崇氏が受賞、会長特別賞は「東日本大震災後の山岳放射能調査」を行った宮城支部の柴崎徹元支部長が受賞。そして、若々しい新入会員の山へ登る喜びと憧れの挨拶に大きな拍手があった。



出席者
佐々木民秀 今野昌雄
佐藤和志 鈴木裕子
記念山行 四日
(乙女峠)丸岳
長尾峠)富士
見ヶ丘公園)

参加者 佐々木民秀 今野昌雄
佐藤博 鈴木裕子

支部長会議

晩餐会に先立ち、同ホテルの会議室「高尾」で開催。今野支部長出席。

「支部の準会員を増加させるための提案」が事前に各支部へ照会があり、そのことの意見交換がおこなわれた。

その他、支部の二十八年度の決算や二十九年度予算案等の提出について。

登山届の電子申請について

秋田県警察本部では、登山計画書の提出率向上を図り、安全登山の意識付けと遭難事故発生時の迅速的確な捜索救助活動に資するため、これまでの書面での登山届の提出に加え、新たに電子申請・届け出サービスシステムを利用した登山計画書の提出も可能となりました。

QRコードを掲載しますので、ご利用ください。尚、隣接県への登山についてもQRコードは変わりません。秋田県警から隣接県警へ転送されます。

この電話山歩き
を携帯取り出し
山の方へ提出が
する読み取りで
秋田県警へ提出
登山コード等届
けます。(簡単入
登山)



なお、この登山届については、中央地区山岳協議会会長・佐々木民秀(秋田支部顧問)に、秋田県警生活安全部地域課からQRコードの登山計画書周知について相談を受けたものです。